

銅輸出、スクラップが外需旺盛で増加

鋼生産、販売ともに引き続き増加も住宅着工

アルミ橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

六月前半は五月の米雇用統計が市場予想を下回り、早期金融引き締め懸念が一服、ドル安

になったこと、世界的需要拡大期待で銅パイ反発するなどのプラス材料もあったが、五月の中国貿易統計で輸出が対前年同月比で四月の三二・二%や事前予想の三二・一%を下回った二七・九%であったことなどを嫌気し、LME銅相場はDOWN、六月十五日時点で九九〇〇ドル(セツル)、と月初価格より三一ニドルDOWNの前半締め。

後半は米国で超党派で一・二兆ドル規模のインフラ投資が合意されたことなどのプラス材料もあったが、中国備蓄放出方針十六日に発表されていた五月の中国工業生産の伸びが四月の九・八%から八・八%に鈍化したうえ、二十七日には利潤の伸びが同じく五七%から三六・四%に大幅に減速したことを嫌気しLME銅相場はDOWN、六月末日現在、後半スタート価格から一〇七ドルDOWNの九二二五・五ドル。七月スタート建値は二〇九万円。

■前月の経済指標

●月間のドル/円レート (TTS) 一一・〇四一→一一・五二一(円)。

◆自動車生産台数

生産動態統計によると、五月の自動車生産台数は前年比六四・一%増の四七万二、〇〇〇台。

◆自動車販売台数

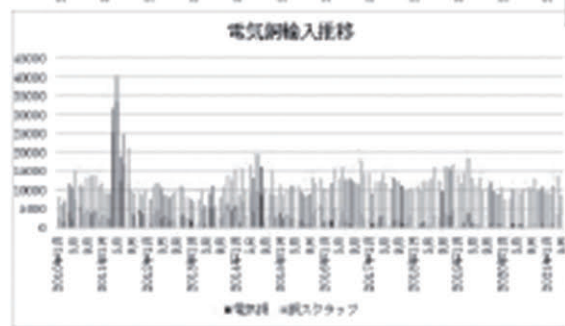
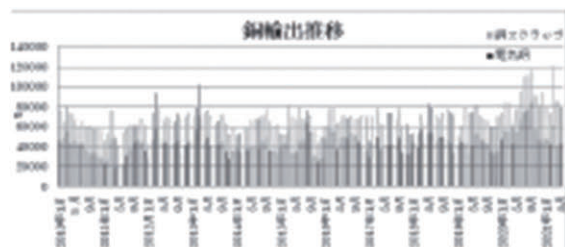
日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比九・二%増の二万三、四、六九七台。

◆新設住宅着工件数

五月の新設住宅着工は、持家、貸家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比九・九%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・九%の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万〇、一七八戸で前年同月比九・九%増と、三カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は五、八五二千㎡で前年同月比一一・六%増と、二カ月連続の増加。



季節調整済年率換算値では八万五千戸で前月比〇・九%減と、五カ月ぶりの減少。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二一・六%減の四万三、一〇七t、スクラップが六二・二%増の三万六、九五〇t。

輸入

輸入は電気銅が前年比九〇・七%減の九八t、スクラップが一・七%増の八、五二五t。

■前月の国内指標

五月伸縮品生産量は前年同月比二七・五%増加の六万、四一〇トンと、五カ月連続増加した。また、一四品目全てで前年同月実績を上回った。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は、前年比九・一%増の四万五、九〇tであった。

■国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると、五月の自動車生産台数は前年比六四・一%増の四七万二、〇〇〇台。輸出は二二・七%増。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比九・二%増の二万三、四、六九七台。うち乗用車八・八%増、貨物二二・二%増、バス一・四%減。(六回へ続く)

LMC銅・今も米経済、景気対策と中国の景気動向などがカギ

【四週より続く】

【住宅着工戸数】

五月の新設住宅着工は、持家、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比九・九%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・九%の減少となった。

新設住宅着工戸数は七万〇、一七八戸で前年同月比九・九%増と、三カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は五、八五二千㎡で前年同月比二・一六%増と、二カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八七万五千戸で前月比〇・九%減と、五カ月ぶりの減少。

【伸銅品生産】

五月伸銅品生産量は前年同月比七・五%増加の六万一、四一〇トンと、五カ月連続増加した。また、一四品目全てで前年同月実績を上回った。

品別では、銅条は前年同月比三三・二%増と八カ月連続プラス。引き続き二〇一八年の同月実績を超えている。銅条や銅箔の需要急増から国内生産が逼迫しているとの話が聞こえることに対し、同協会は否定した。現時点において、納期遅延が起きるケースがあっても、顧客の生産ラインを止める事態になっていないとのこと。部品不足から自動車の一時的な減産があるが、下期に向けて自動車生産が更に増えることから、伸銅品の顧客は部品確保を進めている。そのため、銅条などの伸銅品の引き合いは強い。

黄銅棒は前年同月比一七・三%増加と、四カ月連続のプラス。ただ、二〇一九年の同月実績を下回った。

【電線出荷】

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、前年比九・一%増の四万五、九〇〇t。うち国内八・二%増、輸出が八〇・四%増。

【輸出】

電気銅輸出が二・六%減の四万二、一〇七t。銅スクラップが六・二%増の三万六、九五〇t。

【輸入】

電気銅が九〇・二%減の九六t。スクラップが二%増の八、五五t。

【自動車】

五月の自動車生産が六四・一%増。六月国内販売台数が九・二%増。

生産急増は半導体不足の影響はないとの認識。販売も増加。

今後生産、販売ともに増加していくか注視。

・五月伸銅品生産量は前年同月比二七・五%増加の六万一、四一〇トンと、五カ月連続

増加した。また、一四品目全てで前年同月実績を上回った。

更に増加するか注目。

・日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、前年比九・一%増の四万五、九〇〇t。

うち国内八・二%増、輸出が八〇・四%増と、内外とも増加。

内外ともにプラスが続くか注視。

・銅輸出は電気銅が内需要因から減少、スクラップは外需旺盛に伴い増加。

・銅輸入は電気銅が内需から急減、スクラップは内需回復から急増。

【スクラップ景況予想】

流通(一次商庫)在庫は、銅建値が一七万円の高値安定から一時一〇六万円まで急落したタイミングで放出されたため、ある程度余裕あり。

需要面に関して、前月に続き、半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的になく、生産は急増傾向にある。しかし、原料高値安定のため、メーカーはスポット買いに徹しているが、思うように入らないメーカーが高値買いの傾向も見受けられる。

【LME・為替予想】

今月は①米経済、景気対策と②中国の景気動向、原料価格抑制策に左右される。

①に関しては

バイデン米政権は二十四日、米国で超党派で二二兆ドル規模のインフラ投資が合意されたことから、米景気は回復傾向が続くのではないかと。

今回の超党派によるインフラ投資法案の合意は、共和党が米国雇用計画のなかで賛同できる項目であるインフラ投資(ハードインフラ)を中心にまとめた内容。

②に関しては

十六日に発表されていた五月の中国工業生産の伸びが四月の九・八%から八・八%に鈍化したうえ、二十七日には利潤の伸びが同じく五七%から三六・四%に大幅に減速したこと、中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策の実地も、効果がありなかったこと。

これらを踏まえ七月の銅価格は九五〇〇、一萬〇、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇九円、一一二円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては、一〇四万円、一一二万円程度と予測している。